

# 前芝中学校通信

～校長室の窓から～

豊橋市立前芝中学校

第51号

H27. 9. 4

## 命の尊さ・命を守ることを 学び考える前芝中の生徒②



【命を考える観劇会 “嗚呼、青春の花は咲く”】

8月7日（金）午後

体育館棟等竣工記念事業関連行事として開催しました。学校に集合してバスで豊川市民文化会館に向かい、開催中の“嗚呼、青春の花は咲く”を全校生徒で（一部、高校の体験入学の重なった3年生は欠席）観劇しました。

豊橋の公立小中学校では唯一、敷地内に「豊川工廠戦没学徒の碑」がある前芝中学校の生徒が観劇するというので、劇団関係者のご配慮で団体割引や、一番前の席を用意してくださいました。

生徒たちはこの恵まれた観劇の環境で、プロの劇団員と市民応募で構成された出演者の素晴らしい演技や、工夫された舞台構成に見入り、中には、心打つ場面で涙する生徒もいました。前芝中の生徒たちには70年前に豊川海軍工廠で起こったこと、その中に現在の前芝中学校1、2年生に当たる年齢の生徒たちがいたこと、脚本家や出演者が訴えていること等をもとに、この観劇会で心に刻んだことや命の大切さ、平和の尊さを忘れず、また、周りの人や次の世代の人に語り継いでいってほしいと思います。また、生徒たちは、演技で自分を表現することや演劇を成功させるための裏側の役割などを、文化祭などの行事で生かしたり、これからの自分自身を磨くヒントにしたりするなど、学んだことも多いでしょう。

【1年生代表生徒による平和学習の発表より】

7月30日（木）全校集会にて

今までどちらかというと、戦争に行った兵隊さんたちがたくさん死んでしまったということの方が印象に残っていたけど、残された人々も子どもたちは幼いのにもむごく辛い死に方をしてしまったり、死ななくても大切な家族を亡くして一人になってしまったりと辛かったことが分かりました。

防空壕に入ってコンクリートが落ちてきてそこで埋まって死んでしまった人もいることを知って、命を守るための物が人の命を奪ってしまうこともあるんだなと思いました。

今は、きっと本当の戦争の怖さを知っている人や知ろうとしている人はとても少ないと思うけど、“戦争”はたしかにこの日本で起きたことで、その過去から目を背けたり、忘れてしまえばその戦争で死んでしまった人たちを忘れることになるから、その人たちが自分で望んでいなかったとしても、その命で教えてくれた日本・世界の大きな過ちを、しっかり次の世界へもつなげなきゃと思いました。（1年 女子）

最近はいざらに戦争のことに触れていなかったけれど、今日の授業で改めて戦争の悲劇を知りました。国同士の争いのために国民全員が大変な苦しい思いをして、たくさんの尊い命が失われたことが分かりました。今では食料も水も困らないほどあって、好きなものを好きなだけ食べられる平和な世の中なので、感謝していきたいと思います。

私たちが当たり前で暮らしている前芝校区にも今からは想像もできないほどの悲惨な光景が広がっていたことが分かりました。戦争はどんな人にとっても辛くて嫌なことなので、いつまでも平和な日本になってほしいです。前芝国民学校でもたくさんの命が犠牲になったということが分かりました。罪もない人々の命が戦争によって奪われたというのは、考えただけで辛いです。戦争は二度としてはいけないと感じました。（1年 女子）

【命を考える観劇会の感想より】

僕は、豊川海軍工廠の爆撃について、今まで何も知りませんでした。でも、劇を見て、工廠で働いていた女学生たちは、「月月火水木金金」と言われるように、ほぼ休みなく働いていたことが分かりました。

爆撃されている時は、防空壕が満員で、入れてもらえないこともあったことを知りました。それでも最後まで家族のことを思っていたので、心がとても強い人だと思いました。

(1年 男子)

私は、今までも戦争の勉強をしてきたけれど、学徒動員についてあまり知りませんでした。この劇を見て女学生は分刻みのスケジュールで、軍隊の考えが主体となっているため、戦争一色でとてもつらい状況で働いていたことが分かりました。70年前には、私とそう変わらない歳の方たちが働かされていたという戦争の重みを、あらためて感じました。「あれがやりたくない。めんどうだ」なんて文句が言えるくらいの現代は、そうとう平和だなと思ひ、反省しました。

(1年 女子)

豊川海軍工廠で実際に起きた、爆撃を演技という形で観て、恐ろしさ、つらさ、大変さなどが分かりました。働きたくなくてもお国のために一生懸命に働いていた方々は、私たちの何倍もつらい思いをしていたということが分かり、今の時代に生きている私たちは大きな争いごともなくとても幸せなんだと思いました。

親と兄弟と親戚と離れて生活をする中で、友達がどれだけ大きな存在か気づいていたので、私は本当の友達の大切さがまだ分かっていないと思いました。この劇で友達の大切さを知ったので大切にしたいと思ひます。

(2年 女子)

僕がいちばん思ひたことは、戦争は絶対にやってはいけないということです。口では「勝つぞ」と言っている人でも、内心では「早く家族と会いたい」と思ひていたと思ひます。自分のやりたいこともできず、本当にかわいそうだと思ひました。そして、今の自分がとても幸せだと思ひました。

劇では逃げてるところや空襲の場面がとてもリアルで本当にその場にいるようでした。しかし、本当はもっと音もすごく、火もすごく恐いだろうと思ひました。

(2年 男子)



写真はすべて  
8月28日(金)  
東日新聞 掲載

この劇は聞いたことのある豊川海軍工廠のことが題材だったので、少し身近に感じました。70年前に、自分たちを同じくらいの年齢の人たちが空襲で命を落としたことを、あらためて考えて、他人事とは思えなくなりました。自分たちが今、すごく恵まれていると感じました。

劇では、自分と同じくらいの年齢の人が、とても一生懸命に演技をしていて驚かされました。物事に、一生懸命に打ち込む姿勢は見習わなければいけないと思ひました。

(3年 男子)

心に残っているのは、家族が遺書を見つけて泣き崩れるシーンです。送り出したくないのに、口に出せない家族の辛さを思ったら、胸が痛くなりました。そして、爆撃を受けるシーンも心に残っています。目の前で友達が死んでしまうシーンを見たときは、鳥肌が立つほどでした。

平和な日本を保つためには、戦争の悲惨さを後世に伝えることだと思ひます。今はメディアも発達しているので、そういうツールを活用しても伝えられるのではないかと思ひました。

(3年 女子)